

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度		開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		研究科造園学専攻	
科目名称	造園計画特論Ⅰ							授業形態	講義	
科目コード	642521	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験担当教員		○	Active・L	○
担当教員名	関西 剛康								ICT活用	○
授業概要	高度に進歩し多様化する緑環境の社会資本において、造園学における造園計画の展開は、その課題解決に必要とされている。造園計画の学域は、園芸学・工学・美学等を横断しており、さらに歴史・文化の基盤上にも成立している。そこで本授業では、先進事例のランドスケープ・プランを取り上げ、造園計画の理念から手法までの計画論を学び、その高度な専門的知識と技術の修得を図る。教員は、技術士（総合技術監理部門、建設部門（都市及び地方計画））や登録ランドスケープアーキテクト（RLA）等の有資格者であり、実務として造園コンサルタントの設計事務所で20年にわたって国内外の100件を超える都市公園や庭園プロジェクトに参画したキャリアを有する。また、教員は文化庁文化審議会専門委員、宮崎県美しい宮崎づくり推進有識者会議長、宮崎県景観まちづくりアドバイザー、宮崎市花のまちづくりコンクール審査委員長、宮崎グリーンインフラ研究会長などの職務経験も豊富である。授業では、実際に計画設計したランドスケープや先進事例を紹介しながら行う。									
関連する科目	本授業の履修前に東洋庭園学特論Ⅰ、本授業の履修と同時に造園計画特別演習、本授業の履修後には造園計画特論Ⅱ、東洋庭園学特論Ⅱを受講することが望ましい。									
授業の方法と進め方	1. 基本的にアクティブラーニング方式を取り入れて実施する（学術・知識のインプット）。 2. 授業前半は講義を行う（学術・知識のインプット）。 3. 授業後半はグループ学習、ディスカッションや課題発表（問題解決学習、プレゼンテーション）等を行う（学術・知識の醸成とアウトプット）。 4. 授業にはノートパソコンを持参して、ZOOMやSLACKを用いて、データや資料を共有しながら授業を行う。 5. CAD、画像加工アプリ、統計処理ソフトなどを用いながら、授業を行う。									
第1回	第1回 序論：造園計画特論Ⅰの概要説明と心得を行う。 第2回 Chapter1 造園計画における先進的なメソッド （造園計画の基礎的理念について学ぶ）" 第3回 Chapter1 造園計画における先進的なメソッド （造園計画の変遷と展開にいて学ぶ） 第4回 Chapter1 造園計画における先進的なメソッド （造園計画のプロセスについて学ぶ）" 第5回 Chapter1 造園計画における先進的なメソッド （造園計画のエレメントについて学ぶ）" 第6回 Chapter1 造園計画における先進的なメソッド （造園計画のベシック・メソッドについて学ぶ） 第7回 Chapter1 造園計画における先進的なメソッド （造園計画のテクニック（庭園空間編）について学ぶ） 第8回 Chapter1 造園計画における先進的なメソッド （造園計画のテクニック（緑地環境編）について学ぶ） 第9回 Chapter1 造園計画における先進的なメソッド （造園計画のテクニック（まちづくり編）について学ぶ） 第10回 Chapter1 造園計画における先進的なメソッド （造園計画のテクニック（マネジメント編）について学ぶ） 第11回 Chapter2 造園計画の先進的な研究と応用 （造園計画の先進事例の研究と学術論文事例の分析（庭園空間編）について学ぶ） 第12回 Chapter2 造園計画の先進的な研究と応用 （造園計画の先進事例の研究と学術論文事例の分析（緑地環境編）について学ぶ）									

	第13回 Chapter2 造園計画の先進的な研究と応用 (造園計画の先進事例の研究と学術論文事例の分析(まちづくり編)について学ぶ) 第14回 Chapter2 造園計画の先進的な研究と応用 (造園計画の先進事例の研究と学術論文事例の分析(マネジメント編)について学ぶ) 第15回 造園計画特論Ⅰの纏めと今後 (次世代における造園計画の方向性について学ぶ)"
授業の達成目標	1. 高度な造園計画の専門知識とその手法についての理解【基礎的知識の習得】 2. 高度な造園計画に必要な情報を収集する方法を学ぶ【基礎的知識の習得】 3. 高度な造園計画の設計や評価に必要な技術を身につける【態度・志向性の育成】 4. 実際のプロジェクトに対して、問題解決能力を身につける【自己管理力・生涯学習力】
学位授与方針(DP)との関連	1.知識・技能と教養-(1)食・緑」の専門分野における高度な知識・技能／1.知識・技能と教養-(2)未知問題解決のために知識・技能を創造的に活用できる。／2.人間力・社会性・国際性-(1)豊かな個性を発揮して課題を発見し、探求することができる。／2.人間力・社会性・国際性-(2)課題を広い視野で捉え、客観的に評価ができる。／2.人間力・社会性・国際性-(3)主体性を持って多様な人々と協働し、課題解決ができる。／2.人間力・社会性・国際性-(4)自分の文化や異なる文化を理解でき、文化を超えて交流できる。
授業時間外学習【予習】	1. 授業で配布する学術論文や資料等を授業前に精読すること。 2. 大学院の授業であるため、事前に参考となる研究資料を準備しておくこと。 3. 予習は1時間程度行うこと。
授業時間外学【復習】	1. 授業後にさらに理解を深めるために学術論文や資料等を再度精読すること。 2. 復習は1時間程度行うこと。
課題に対するフィードバック	レポートは評価後、返却期間をもうけて返却ならびに解説をします。
評価方法・基準	発表・研究した内容に関するレポート(100点)
テキスト	テキストは使用しないが、その代わりに適宜プリント資料を配布する。
参考書	1. 『ランドスケープ研究』日本造園学会 2. 『ランドスケープ研究作品集』日本造園学会 3. 『ランドスケープデザイン』マルモ出版 など
備考	造園計画研究室(関西研)における研究領域の概要は以下の通りである。 1) まずは、SDGs(持続可能な開発目標)を基本に、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりを進める「グリーンインフラ」の視点に立ち、地域活性化や持続可能な都市経営を考えたランドスケープについて研究している。例えば、地域の課題解決型をテーマに、実際にフィールドワークによって現状の課題について調査分析を実施し、地域の方との協働で考察を行い、新たな社会資本やその体制をランドスケープの社会実装を推進。 2) また伝統的な日本庭園の研究を推進して、文化財庭園の修復や継承から持続可能な維持管理による文化財保護、その庭園の歴史的背景に関する史的研究などを行い、世界に発信する日本文化の深化を図っている。そして、その知識と専門技術を用いて、次世代型の日本庭園の構築を研究している。 ①近代ランドスケーププラン&デザインに関する実践研究とその活用(グリーンインフラ社会実装・造園計画) ②都市緑地環境の形成に関する調査研究とその活用(都市緑地形成・都市経営・まちづくり) ③日本庭園の成立背景に関する歴史原論研究とその活用(日本庭園史・庭園計画・歴史まちづくり)考察を行い、新たな社会資本やその体制をランドスケープの社会実装を推進。